

齊藤茂吉全集

第三十六卷

第三十五回配本（全三十六卷）

齋藤茂吉全集 第三十六卷

定價 三千三百圓

昭和五十一年四月三十日發行

著者 齋藤茂吉

發行者 岩波雄二郎

〒100 東京都千代田區一ツ橋二丁目五番五號

株式會社 岩波書店

電話（03）5561111

印刷・精興社 製本・牧製本

落丁本・亂丁本はお取替いたします

目次

昭和二十三年	一
昭和二十四年	二六
昭和二十五年	三〇
昭和二十六年	三七
書簡補遺	

明治三十四年	三九
明治三十五年	四二
明治三十六年	四六
明治三十八年	四九
明治三十九年	五〇

明治四十年	三五六
明治四十一年	三五七
明治四十二年	三五九
明治四十三年	三七四
明治四十四年	三八〇
明治四十五年（大正元年）	三八七
大正二年	三八九
大正三年	四〇〇
大正四年	四一二
大正五年	四一九
大正六年	四三〇
大正七年	四四二
大正八年	四四五
大正九年	四四九
大正十年	四五四

大正十一年	四六一
大正十二年	四六九
大正十三年	四七六
大正十四年	四八一
大正十五年（昭和元年）	四九二
昭和二年	五〇八
昭和三年	五一五
昭和四年	五二一
昭和五年	五二四
昭和六年	五三〇
昭和七年	五四四
昭和八年	五五六
昭和九年	五六四
昭和十年	五八二
昭和十一年	五九〇

昭和十二年	六三
昭和十三年	六七
昭和十四年	六八
昭和十五年	六九
昭和十六年	七〇
昭和十七年	七一
昭和十八年	七二
昭和十九年	七三
昭和二十年	七五
昭和二十一年	七九
昭和二十二年	八一
昭和二十三年	八三
昭和二十四年	八五
昭和二十五年	八七
昭和二十六年	八九

年次不詳	八九二
------	-----

書簡索引	九〇三
------	-----

後記	九六九
----	-----

昭和二十三年

六五九八 〔二月一日 兵庫縣芦屋市打出若宮町四 岡田眞大人 代田自宅より（はがき）〕

恭賀新年 仙覺抄十七冊正に拜受活版本のみにたよりし眼には稍難澁なるが、ナガめて居るだけにても勇氣湧候 頓首

六五九九 〔二月一日 山形縣酒田市堀切 藤井康夫大人 代田自宅より（はがき）〕

恭賀新年 昨年中は一方ならぬ御世話様に相成りましたことを感謝いたします 蛸の字ありがたし土屋竹雨先生は御親戚のよし、これから漢詩についていろいろと御教示にあづかる事と存じます 御兩親様奥様よろしく

六六〇〇 〔二月一日 愛媛縣宇摩郡小富士村 山上次郎様 代田自宅より（はがき）〕

拜啓御蜂蜜御惠與、正に拜受感謝いたします 拙書今日書留便にて送りました。上巻の折返し御計畫もよろしいですが小さくして折返さぬのもよろしからむその他の分はよろしきやう御取計らひ願上ます 恭賀新年

六六〇一 〔二月三日 長野縣南安曇郡北穂高村 武井文雄様 代田自宅より（はがき）〕

拜啓宗吉儀萬々御世話様に相成りふかく感謝いたします。三月には受験せねばならぬのですから甚だ恐入りましたがどうぞ御配慮願いたします、○短冊も承知いたしました字が下手ですが悪しからず御願いたします、

頓首 岡先生によりしく御願いたします

六六〇二 〔二月六日 横濱市戸塚區東俣野住友邸内 泉幸吉大人 代田自宅より（はがき）〕

恭賀新年 舊臘は多大の御歳暮いたゞき生活深刻の折柄大に助かりました○御歌上等です、神經をお強くして傳染防備大切です○山口君も残念至極であります。どうぞ御厚情たまはりました○この狀勢きりぬくにはどうしても強くならねばなりませんぞ老生も客のない時には臥床いたしをります 頓首 奥様はじめ御嬢さまによりしく御願いたします

六六〇三 〔二月六日 芹屋市打出若宮 岡田眞大兄 代田自宅より（はがき）〕

恭賀新年 昨日は萬々御芳情に接しました。今般は布地（貴重品）御送下さいまして何とも忝くあつく御禮申上げます。新年になりましたが、中央區に出るのも難儀ですし、どうも億劫でかなひません。どうぞ御自愛の上、御奮闘願ひ上げます。

六六〇四 〔二月八日 山形縣北村山郡大石田町 板垣家子夫兄 代田自宅より（はがき）〕

拜啓速雄君御ケガのよし、大に心配いたして居ります、どうぞ合理的に醫學的に御養生ねがひあげます貴家は御一同何の御心配なく多幸の御新年なるに御ケガ等ありてはいかにも残念でありますから、どうぞ御自愛御自重のほど願ひ上げます。ベ。ィ。ス。ポ。ー。ル。な。ど。も。ど。う。ぞ。な。さ。ら。ぬ。や。う。御。願。ひ。た。し。ま。す。○老生もこの新年は餅などゝいたゞいなどして、兎に角多幸な新年でありました勉強は何も出来ません。机に向ふひまがありません。孫は御かげにて丈夫で育つてをります、○連日停電にて夜は何も出来ず布団にもぐり込みます、皆々様によりしく敬具 ○カクニさんその他皆々様にどうぞよろしく御願します○小生の所得税第三期迄は大石田で収めました

が、第四期分は東京で収めますか、轉入の御届を楯岡税務所^{〔原〕}に御話し下さいましたでせうか。

六六〇五 〔一月十日 廣島市宇品町十七丁目 織田公明君 代田自宅より（はがき）〕

恭賀新年 御勉強、よろしく願います 頓首 連日暇なし

六六〇六 〔一月十日 港區青山南町五ノ九〇 佐藤佐太郎様 代田自宅より（はがき）〕

拜啓、きのふは失敬、十五日は小生宮内府にまゐらねばならぬにつき大兄が代田迄お迎へに來らずに、澁谷驛の元八公像の前に御待ち下さい。時間は午後四時半頃がいかゞですか（この時間を折返し小生迄御通知下さい）。小生は（茂太も）獨立に御時間迄そこにまゐります〇奥さんによろしく

六六〇七 〔一月十二日 北海道空知郡砂川町上砂川三井鑛業所氣付駒ヶ臺八五 安藤あい子様 代田自宅より（はがき）〕

恭賀新年 今般は御心づくしの品々御惠送にあづかり何とも忝くあつく御禮申上げます、歸京以來いまだ心落著かず失敬いたしました東京は連日晴天でございますが電燈消えて弱つてをります御禮迄

六六〇八 〔一月十二日 三重縣伊賀上野市丸の内 菊山當年男大人 代田自宅より（はがき）〕

恭賀新年 二十三年元旦 今年も相かはらず願上げます歸京後いまだ氣持落つかず毎日孫と遊び消日してをります東京は晴天つきでありますがよる電燈きえて何も出來ません御地の皆々様にどうぞよろしく御願します

六六〇九 〔一月十三日 世田谷區玉川奥澤町一ノ二三二アララギ 五味保義様 代田自宅より（はがき）〕

拜啓來る十五日（木曜）は小生無據用事にて留守になりますから御使ひの方若し御いで下さるならば十六日の

午前に御願います 頓首^{〔原〕}

六六一〇

〔二月十四日 山形縣北村山郡大石田町 板垣家子夫様二藤部かくに目様 代田自宅より（はがき）〕

拜啓○皆さんどうか御自愛ねがひ升病氣は一番心配です○御文章上等也いつもこの調子に願ふ。鷗外先生の文章をもつと御よみ下さい○目さんの陽一ちゃん、友紀子ちゃんから御手紙いたゞき感心しました。大にはめてやつて下さい○味噌何ともありがたく連日いたゞいてゐるが、だんだんへるのですさびしい○昭雄君の漢和字典に「癰」の字ありや、あつたら、その訓御しらせ願升○山形の郁文堂にあつた、博文館の和歌叢書萬葉集略解二冊はまだ残つてゐて、二百八十圓から三百圓迄なら買つて送つて下さい○孫の子守で毎日何もしません 頓首

六六一一

〔二月十五日 字和島市坂下津甲四〇七ノ一 内山直様 代田自宅より（はがき）〕

恭賀新年 どうぞ御地の友人諸君によりしく御傳言願上げます。老生無事、しかしやはり老境に入りました。

六六一二

〔二月十五日 山形縣北村山郡大石田町 後藤梅子様 代田自宅より（はがき）〕

恭賀新年 いつも大石田の御馳走様のことおもひだし東京の生活の深刻なることをおもひだしてをります。青年諸君も御勇躍、餅のお正月御迎への事と存上ます先生はじめ御嬢ちゃん皆々様へよろしく願上ます

六六二三

〔二月十五日 横濱市神奈川區六角橋五四〇 佐伯藤之助様 代田自宅より（はがき） 齋藤昌子・齋藤美智子との寄書〕

御自愛御大切に孫も三歳になり甘えてかなひません（祖父茂吉） 繪の御手紙何とも忝し

六六一四 〔二月十五日 山形縣北村山郡大石田町小□ 高桑幸助大人 代田自宅より（はがき）〕

拜啓今年は御大切になされどうぞ御長命願上げます 頓首

六六一五 〔二月十六日 島根縣邑智郡粕淵町 波多野虎雄様 代田自宅より（はがき） 齋藤茂太・齋藤美智子との寄書〕

恭賀新年、御芳情大に感謝します、御惠送の御品いづれ届と存じます。若し届かなかつたら又請求いたしますが、届いたらもう禮狀出しません、奥さんによろしく（茂吉）

六六一六 〔二月十七日 岡山市北方・五二〇湯淺敏夫氏 杉鮫太郎様 代田自宅より（はがき）〕

拜啓今般吾儘なる御願にも不拘早速平賀元義の哥御惠顧にあづかり大謝いたします〇四國よりの御たよりも大謝します〇御自愛御研鑽のほど御願いたします 頓首

六六一七 〔二月十九日 鎌倉市雪ノ下一九八 高橋愛次様 代田自宅より（はがき）〕

恭賀新年 疎開中は萬々御芳情に接しました十一月はじめ無事歸宅いたしましたから御安心願上ます〇土屋君より來書にて十一月二十六日頃二三日あけておけとの事なりしが銘々忙忽の生活ゆる夢の如くに消えさりましたから春暖の折に萬々申上げます

六六一八 〔二月二十五日 藤澤市鶴沼六二二八 田中隆尙様 代田自宅より（はがき）〕

拜啓ツアラツストラ御買求め願上げます、いづれ拜眉萬々 頓首

六六一九 〔二月二十五日 芦屋市打出若宮町四 岡田眞兄 代田自宅より（はがき）〕

拜啓今般は正宗氏の萬葉總索引について非常なる御親切たまはり何とも忝くあつく御禮申上げます大兄の御親切により空虚なる心がやうやく充たされまゐること感謝のほかありません。特にこの貴重本を御めぐみ下さるといはれるに至つては大恩言語に絶するほどであります、頓首

六六二〇 〔二月二十七日 茨城縣新治郡下大津村 飯島ゑい様 代田自宅より（はがき）〕

拜啓御懇書いたゞきました。御良人様御陣歿の御事何とも御いたましく御悲歎のほど幾重にも御くやみ申上げます。國家の御ためでありました。○老生疎開中よりいろいろと御厚情に接しましたが只今も何よりの御品いたゞきましてふかくふかく御禮申上げます。老生何の御禮も出来ませんが、何か御申越し下さいませんか、略儀御禮迄 頓首

六六二一 〔二月二十七日 北海道深川町 鬼川俊藏先生 代田自宅より〕

拜啓この御紙も御惠與の御品でございます今般は實に實にたいした物を頂戴いたしましたして、感謝無限でございます、目下、どうしても動かない御品のみでございます、實に痒いところに手のとゞく御心づくし、よつて感謝無限でございます。どうぞこの感謝を奥様にも御傳へ下さるやう御願いたします又度々の御繪信も飽かず拜見いたしてをりますせがれが開業の眞似事のやうなことをいたし居りますが、それでもたまに御病人が來られて感謝してをります、小生は東京にまだ慣れず、空氣にも慣れませんしばやばやしてをりますすかし乍ら今度いたゞいたものを頂戴いたしましたして元氣出すつもりでございます、中央公論の一月號の拙哥も御一讀願ひ上げます 頓首 27/1 鬼川先生侍史

六六二二

〔二月二十七日 中野風野方町二ノ一六四五扶桑書房氣付 矢島祐利博士侍史 代田自宅より（はがき）〕

拜啓益々御清健、益々御精進慶賀中上げます、今般御高著御惠送にあづかりまして光榮感謝にたへません、老生やうやく歸京いたしました、もう體がなかなかおもふやうになくなりました。いづれ拜肩御禮申上げます 頓首

六六二三

〔二月二十七日 山形市宮町二〇五一 眞壁仁大人 代田自宅より（はがき）〕

拜啓青猪の歌御發刊慶賀中上げます、老生にまで一部御惠與にあづかり深く感謝いたします、一拜讀緊張せる新調感動いたしました高村氏の御指導あることをおもへば尊敬せざるを得ませぬ。どうぞ御自愛の上としどし御新作願います、詩は和歌とちがひ全く新しく進展出來ますことを祝福いたします黒川能の節はありがたいございました

六六二四

〔二月（日不詳） 長野縣東筑摩郡和田村和田小學校 桐原義司様 代田自宅より（はがき 齋藤宗吉との寄書）〕

恭賀新年 小生疎開中はいろいろ御厚情に接しました、又宗吉も一方ならぬ御厚情に接し上京に際しましてもいろいろ御土産頂戴しふかく感謝いたします。老生今般表記の家族と同居いたしますからどうぞよろしく御願いたします、（茂吉）

六六二五

〔推定一月 日不詳〕 山形縣東置賜郡宮内町 黒江太郎様 代田自宅より（はがき）〕

恭賀新年 どうぞ御地の諸氏諸嬢へよろしく御願いたします○佐藤佐太郎君の永言社から發行になつた小生の「短歌寫生ノ説」を五冊ばかり御おくりいたさせますから御同好の方か、歌會、書店の店頭にならべるやうにで

もして、御賣下さるやう御願いたしますこれは再版しませんから、今のうち御願いたします。

六六二六 二月一日 長野縣スワ市日本赤十字社病院八ノ廿號 藤原咲平先生侍史 代田自宅より

拜啓御手術被遊ましたよし前田博士は老生も熟知名醫ゆゑ安心いたしました御経過御順調のよし何よりでございます然しマーゲンもせまくなりました事でございますから御養生御自愛いのり上げます奥様も一寸難眠であられました、(御心配なされたためと存じあげました)もう御よろしくなりましたから御安心願上げます、又もう専門醫家の御手で治療申上げてゐますから安心いたします新年御歌會で毎日忙しくありましたがやうやく三十日で相すみ小閑を得ましたから、御見舞申上げます。先夜寺島布川氏に御馳走になりました、席で藤原先生の居られぬのを残念に存じ上げました。東京の氣候は今日はクモリです。一度小雪が降りました。東京の生活は深刻であります。又母(養母)八十三歳にて永眠いたしましたいろいろごたいたしました今日は一七日で淺草の日輪寺にて納骨いたします。敗戦後の東京も實に容易ならず、少々まるつてをります吳々も御大切に 頃首 茂吉 老山人 藤原咲平先生

六六二七 二月一日 愛知縣寶飯郡御津町御馬 今泉忠男國手 代田自宅より(はがき)

拜啓今般は御親切にも御地名産御惠送下さいまして何ともありがたく御禮申上げます、○歸京いたしましたが生話がなかなか深刻です、○どうぞ御両親様はじめ奥様皆々様によりしく願上げます○往年の御馳走様おもひだしてゐます、堀内が汽車内にて下利した時です

六六二八 二月二日 鎌倉市雪の下一九八 高橋愛次大人 代田自宅より(はがき)

拜啓寸陰の御大切な貴堂態々御光來、特に豪華版の無上の御土産御めぐみ下さいまして感謝無限でございます

すいづれ拜眉萬々御禮申上 升 頓首

六六二九 二月二日 岡山市北方一五二〇 杉鮫太郎様 代田自宅より（はがき）

拜啓先般は御高著御贈下さいましてありがとうございました御尊父様御逝去の御事御悲歎のほど拜察いたします、どうぞ御自愛願上ます小生の母（東京の母）もこの廿六日に逝去しました、行年八十三、いづれ萬々頓首

六六三〇 二月九日 富山縣婦負郡八幡村宮尾 内山量子様 代田自宅より（はがき）

拜啓御病臥の御事心配罷在ますどうぞ御大切に御加療御自愛のほど御願いたしますかういふ深刻な時勢でありますから特に御自愛いのり上げます、老生も御かげ様にて無事歸京いたしましたが生話が極めて深刻にてやつて居ります〇今般は御親切を以て御惠與の御豆何とも忝く生活の上に光明をさしますこと感謝のほかありません〇孫も三歳になり、ダイチャンと發音が出来るやうになりました。御禮迄

六六三一 二月九日 松本市大柳町小岩井外科病院内 齋藤宗吉殿 代田自宅より（速達）

拜復一、千葉を三月十一、十二、十三日に受験しなさい、二、東北（仙臺）を三月十五日、十六、十七と受けなさい若し、千葉を受けて、仙臺を受けるのが無理ならば、仙臺だけでもよいが、十三日の夜行で行けば充分だともおもふ。（至急返事よこせ）運よく千葉が受ければ、千葉は善い學校だから、そこに入學しなさい東北もなかなか善い。あと一ヶ月しかないが、數學は全力をそゝぎ數學の教授のところに行き、不審のところをたづねるなり、級で數學の出来る生徒の處に行つて教へてもらへなさい、かういふ際に教はるのは決して恥ではないぞ、お前は小學から中學までは數學が得意であつたのだが、松本に行つて、怠けて、大いにいけない。一年